



増刊号

平成25年3月1日発行
 全国公立高等学校事務職員協会
<http://zenjikyoo2.jp/>
 事務局：東京都立小山台高等学校
 電話03-3714-8155
 東京都品川区小山3-3-32

第66回全国大会は岐阜県岐阜市「岐阜市文化センター」をメイン会場として平成25年7月25日～26日に開催されます。

開催案内が、平成25年3月1日付けで岐阜県実行委員会から発送されます。これを受けて全国協会では分科会の概要についてお知らせします。研究発表のコメントも掲載しましたので、大会参加希望者が分科会を選択する際の参考になれば幸いです。



岐阜城・金華山と長良川（提供：岐阜県実行委員会）

平成25年度第66回全国公立高等学校事務職員研究大会（岐阜大会）

- | | | | |
|---|-----------|---------------------------|-----------------------|
| 1 | 期日・会場 | | |
| | (1) 全国理事会 | 平成25年7月24日（水） | グランヴェール岐山 |
| | (2) 研究大会 | 平成25年7月25日（木）～26日（金） | |
| | | ・全体会 | 岐阜市文化センター |
| | | ・第1分科会 | 〃 |
| | | ・第2分科会 | 〃 |
| | | ・第3分科会 | じゅうろくプラザ |
| 2 | 日程 | 平成25年7月24日（水） 15：30～17：00 | 全国理事会 |
| | | 平成25年7月25日（木） 12：30～17：30 | 開会式、文部科学省講話
全体会、総会 |
| | | 平成25年7月26日（金） 9：20～16：30 | 分科会、閉会式 |

第66回全国公立高等学校事務職員研究大会 岐阜県実行委員長 吉田健太郎

皆様こんにちは。岐阜県公立高等学校等事務職員協会の吉田でございます。
昨年の第65回全国公立高等学校事務職員研究大会茨城大会は、大成功をおさめられ、誠に
おめでとうございます。大変立派な大会を開催され、また来場者に対してもきめこまやかな
おもてなしをされ、まったく感服いたしました。

第66回全国大会は、東海支部の岐阜県で開催することが総会で決定されました。これを受
けて、岐阜県実行委員会では、全国協会や茨城県実行委員会の方々からのご指導・ご助言
をいただき、開催準備を進めているところです。

岐阜大会は7月25日・26日にJR岐阜駅前の2会場で開催する予定です。また前日の2
4日には全国理事会を岐阜市内の会場で開催します。皆様、是非、岐阜大会へお越しくださ
るようお願いいたします。

ちょうどこの時期は「長良川の鶴飼」が開幕しております。岐阜市内を流れる長良川の鶴
飼観覧船乗り場から乗合船にご乗船いただきますと、幻想的なかがり火の下で鶴が鮎を捕える
様子が間近でご覧いただけます。この長良川の鶴飼は1300年の歴史があり、俳諧の松尾芭
蕉や、戦前・戦後には喜劇王のチャップリンなども観覧し、絶賛されています。

また、岐阜市から少し足を延ばしていただきますと、草津・有馬と並んで日本三大名泉と言
われる「下呂温泉」がありますし、さらに足を延ばしていただきますと、古い街並みや江戸
時代の陣屋で有名な「飛騨高山」や、世界遺産になっている「合掌造りの白川郷」もあ
ります。

お時間があります方は、是非お立ち寄りいただきたいと思っております。それでは岐阜でお待ちし
ております。

全体会（講演）講師プロフィール

■林 正彦 氏（はやし まさひこ）

「略歴」 52歳 岐阜県出身（東京大学教授 理学系天文学科）

平成24年4月より国立天文台台長就任

「研究内容」 電波天文学、赤外線天文学

ハワイにある巨大望遠鏡「すばる」のリーダー

「講演等」 爆笑問題の日本の教養に出演

「128億光年の宇宙見物」

星の誕生、超新星爆発の瞬間画像から宇宙の壮大なストーリーを紹介

国立天文台の活動と研究目的

国立天文台は、世界最先端の観測施設を擁する日本の天文学のナショナルセンターです。大
学共同利用機関として全国の研究者の共同利用を進めるとともに、共同研究を含む観測・研究
・開発を広く推進し、また国際協力の窓口として、天文学および関連分野の発展のために活動
しています。

天文学は、人類最古の学問のひとつです。そこには、宇宙の構造を知ることを通して自らの
成り立ちを明らかにしたいという、人類が持つ根源的な欲求が込められています。20世紀後半
には、「ビッグバン宇宙論」が確立されました。

これによって、宇宙史における地球、地球史における生命、生命史における人間へとつな
がる進化のダイナミズムを統一的に描くことができる科学的基盤が成立したのです。

今世紀はさらに、太陽系外の惑星や生命をも探ってゆく時代となりつつあります。

国立天文台は、地球・太陽系から恒星・銀河・銀河団・大規模構造・膨張宇宙へとつながる
宇宙のさまざまな現象の観測と理論研究を深めることによって、人類の知的基盤を豊かなもの
とし、宇宙・地球・生命を一体としてとらえる新たな”自然観創世”の役割を果たしたいと考
えています。



◎研究発表（午前の部）

①これからの学校事務職員をどう育成するか

北海道札幌開成高等学校	事務主任	森	知之
北海道札幌新川高等学校	事務主任	葛城	拓也
市立札幌大通高等学校	事務主任	金谷	康弘

札幌市立高等学校の事務現場における職場内研修の現状を踏まえ、主に職場内研修を通じた学校事務職員の育成を、「若手職員が指導者から得るもの」と「指導者が若手職員に与えるもの」を考え双方の視点から、どのようなOJTが効率的であり効果的かを考察した。

②高等学校の新設や移転、閉校に伴う事務について

大阪市立中央高等学校	事務職員	足立	雅弘
大阪市立東高等学校	事務職員	常本	雅茂
大阪市立工芸高等学校	事務職員	増田	孝子
大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	事務職員	西川	奈緒美

大阪市では、全国に先駆けて特色ある学科の新設や改変を進めてきました。平成24年4月には、商業3校が移転併設し、新商業高校が開校しました。それに伴い、定例以外の様々な業務があり、今まで経験したことのない多くの事務手続を行いました。

今回、その業務内容の経過や流れを記録し問題点を整理して、今後の改編のための資料にしたいと考え、大阪市立高等学校の現状と課題、今後の対応等をまとめました。

③情報交流サイト「E S - C o m m o n s」の整備による事務効率化

～「知」の共有を通じてチームSAGAの結束を目指す！～

佐賀県立伊万里高等学校	主査	向	隆大
佐賀県立伊万里商業高等学校	副主査	鷲崎	正知
佐賀県立伊万里特別支援学校	主事	前田	真吾

佐賀県では、平成24年度末の12名から始まり5年間で約4割の学校事務職員が定年退職し、経験年数の短い職員が増える予定です。研究委員会では、熟練職員が蓄積した知識や知恵の伝承が困難になっていくのではと懸念しています。

そこで、情報の蓄積や双方向の情報交流を可能とする佐賀県立学校事務職員協会専用グループスペースを有効活用し、学校事務職員同士が協働して抱えている問題の解決などを図れないか研究しました。

◎シンポジウム（午後の部）

I 基調講演

- 仮題 「地域の力を活かした魅力ある学校づくり」
- 講師 愛知大学 地域政策学部 教授 鈴木 誠 氏

II シンポジウム

- テーマ 「学校と地域の連携」～学校に地域の力を活かす～
- パネリスト
 - 1 愛知大学 地域政策学部 教授 鈴木 誠 氏
 - 2 ボランティア団体等で学校の教育活動支援を行っている有識者
 - 3 地域連携に取組む学校の事務職員等

○問題提起

地域において、生徒が文化活動（まちおこしフェスティバル等）に参加することや、公共エリアの清掃活動に取り組むことなど、地域づくりに生徒の若い力を活用する繋がりがある。一方、学校においてはインターンシップの受入先として、地域の事業所等に協力を得たり、伝統や文化に関する学習や部活動を行うにあたり地域住民の方々の支援を得たり、様々なかたちで教育活動に地域の力を活用している。

さらに開かれた学校づくりを推進するため、地域（地域コミュニティ）と連携しながら協働で学校教育の改善、充実を図る取組が必要であるとされており、学校と地域の連携は防災・災害対策や防犯対策の推進などにかかる繋がりも期待されている。

従前から地域連携の取組みはなされてきたが、地域との関わりは事務職員の職務のひとつとして認識されにくい傾向がある。

しかし、職場の顔である私たち事務職員は、学校と地域をつなぐ大事な一翼を担っている。事務職員として、より良い学校づくりに参画していくにあたり、地域連携のような学校経営の課題を認識し、如何にして学校経営の改善に寄与できるか、併せて学校の様々な取組みに関わっていくことの重要性について考えたい。

○討議の3本柱

- 1 地域連携の現状について
- 2 事務職員と地域連携の関わり方について考える
- 3 目指すべき地域連携とは



◎研究発表（午前の部）

①ただ今、クレーム対応中！？

～傾向と対策から業務改善へつなげよう～

秋田県立本荘高等学校 主事 佐々木 研志

秋田県立由利工業高等学校 主事 佐々木 源 ほか

日常業務で発生するクレームについて、具体的な事例を紹介しながら、その対処方法を検証する。

また、日々発行している各種証明書にかかわるクレームをクローズアップし、申請様式や対応マニュアルの統一を実現したことにより、事務の効率化が図られたことを紹介する。

②職場における人間関係

岡山県立西大寺高等学校 主事 那須 大介 ほか

年々複雑化・多様化する学校事務室の仕事を、限られた時間や人員で効率よく確実に進めるためには、今まで以上にチームワークが求められており、これには、円滑な人間関係が不可欠である。

そこで、人間関係についての傾向や考え方について、アンケート調査を実施し、過去の調査と比較するなど、現状を分析することで、今後の職場におけるより良好な人間関係を築いていくためのアイデアを提案する。

③あなたの事務引継ぎは大丈夫ですか！？

～事務引継ぎの効率化～

富山県立雄山高等学校 主任 川高 陽子

富山県立富山工業高等学校 主任 川合 慎也

事務職員の定数は、全国的にも削減される傾向にあり、日々の業務にゆとりがない。特に、年度末の人事異動の際は事務引継ぎもあり、心身ともに疲労のピークを感じる者が少なくない。

このような状況であっても、人事異動の際には、事務職員は、しっかりと事務引継ぎを行い、学校運営に支障をきたさないよう新年度を迎えることが重要である。

このことを踏まえ、今後事務職員が減員されても適切な対応ができるよう事務の効率化を図るため、日頃からチェック・確認できる事務引継一覧表について研究し、その内容を発表する。

◎シンポジウム（午後の部）

I 基調講演

○演題 「コーチングでナイス！コミュニケーション」～自分が変われば、すべてが変わる～

○講師 マホ コミュニケーション 代表 浅井 真帆 氏

II シンポジウム

○テーマ 「仕事はチームワークで」～明るく活気のある職場にするには～

○パネリスト

1 マホ コミュニケーション 代表 浅井 真帆 氏

2 (株) サンコーポレーション 総務 稲川 光恵 氏

3 愛知県立東海南高等学校 事務長 加藤 高之 氏

4 (未定)

○問題提起

一昨年の東日本大震災がきっかけとなり「絆」が見直され、それまで面倒がって避けていた人間関係が少しずつ回復されようとしています。核家族化や競争意識の高まりで希薄化してしまった人間関係を取り戻したいと人々が考え始めたのではないのでしょうか。支え合いがなければ人間は生きていけない、そんな思いが人々を動かし始めました。

職場でも業務が多様化・煩雑化し、さらに人員が削減される中で、業務をスムーズに行うためにはチーム力が求められます。働きやすい職場で仕事をしたいと考えると、コミュニケーションが重要になってくるのは当然です。話をする機会を増やし、お互いの考え方や現状を把握・理解したうえで自分の考え方を相手に伝え協力を求める必要があります。普段からのコミュニケーションがあればこそ、ふとした雑談の中で相手の考え方や違ったもの見方に気付くことができることがあります。

学校には、教育目標を達成するためのその年度の重点施策があり、それらを達成するためには、個人のみだけでなく、組織が一丸となることが必要です。事務長は事務室全体の進行管理能力とリーダーシップ、職員には実務能力とコミュニケーション能力が求められます。

少ない人数で業務をこなし、モチベーションを落とさず充実感を持てる、そんな職場のキーワードはコミュニケーションとチームワークであると考えます。目標設定においてもコミュニケーションを通じて決定されたものであれば、達成できた場合の充実感もより高い次元で得られるのではないのでしょうか。こうしたことを踏まえ明るく活気のある職場づくりについて検討します。

○討議の3本柱

1 コミュニケーション能力アップに必要なものとは

2 チームワークアップとリーダーシップ

3 仕事で充実感を得るために必要なものとは



◎研究発表（午前の部）

①校内表示のあれこれ

千葉県立袖ヶ浦高等学校 主査 稲村 美佐恵 ほか

日常生活で使用するコミュニケーションの手段には、言葉・文字・絵・身振り手振りなどがあります。この中でも、世界共通とされているのが、絵ではないでしょうか。

私たち、千葉県公立高等学校事務職員会君津支部研究グループは、絵を用いて場所や行き方を理解させるピクトグラムについて調べ、校内表示等にどう活かせるかを研究しました。

②スッキリ！就学奨励費

～就学奨励費事務処理マニュアルの作成について～

三重県立城山特別支援学校 事務職員 牧戸 菊子

三重県立特別支援学校 玉城わかば学園 事務次長 野口 幸一

西日野にじ学園 事務職員 落合 弘和

国費を含む就学奨励費の給付事務については、非常に細かい作業を必要とし、平成22年に全国特別支援学校事務長会が行ったアンケートで「膨大な時間を要する」と回答した学校は、生徒数が100人未満の学校で半数を超え、100人以上の学校では3/4以上もあった。

三重県も同様で就学奨励費を負担に思っている事務担当者は数多く、これまで統一した事務処理マニュアルがなかったため、経験2年目以上の実務担当者の有志が集まり、初任者研修を行うとともに、事務処理マニュアルの作成を行った。

③情報の共有と活用

～こんな時どうするQ&A 施設設備管理編～

香川県立香川丸亀養護学校 事務部長補佐 丹羽 正理

香川県立飯山高等学校 主任 國重 恵美子

学校現場にて施設設備等管理について基本的な知識を知っていれば早めに対応することが出来、経費削減や被害拡大防止になる。香川県公立高等学校事務職員協会のメンバーにポイントQ&A集作成協力をメールで呼びかけ、集まった内容を研究グループで研修し、「こんな時どうするQ&A 施設設備管理編」を作成すると共に、出来たものを各学校で見ることが出来るように県立学校共有掲示板に掲載することにより共有化を行った。

「こんな時どうするQ&A 施設設備管理編」の内容は以下の6つの項目でまとめた。

- ①電気設備 ②水道設備 ③施設（電気・水道以外） ④剪定・雑草 ⑤害虫・害鳥 ⑥その他

◎シンポジウム（午後の部）

I 事例発表

○仮テーマ 「これからの事務職員の役割」

○発表者 京都府総合教育センター 人材育成支援室アドバイザー 西山 美之

II 班別討議

○テーマ 「これからの事務職員の役割」

○討議形式 4班に分かれ、テーマ別に話し合いを行います。

○問題提起

行財政改革の流れの中で事務職員定数の削減等、我々を取り巻く環境は刻々と変化しており、求められる役割も同様である。

従来、学校経営は校長を中心に教員が主体となり行われ、事務職員は財務規則等に基づいた事務処理に従事することだけを求められてきたイメージが強い。

しかし、現在は従来の事務に加えて「提言」することも求められるように変化してきており、学校の特性や教員との関わりを考慮したうえで、限られた予算の中において、「どのような機会をとらえて」「何を」「どういった方法で」提言したら良いのか、そして前提である「提言するために必要なスキル」を獲得するため、経験や知識をどう蓄えて行くのかが課題である。

平成23年度、24年度全国大会の第一分科会においても、事務職員の在り方について探ってきたわけであるが、今回は班別討議という形で日頃の経験を踏まえたくて、事例発表を参考にこれからの事務職員の役割について討議したい。

○討議の3本柱

1 事務職員として必要なスキル

2 教員とのコミュニケーション

3 事務職員の学校運営への参画

本部活動報告

- 常任理事会（東京・小山台会館）
1/11 全国理事会
岐阜大会分科会運営等について
- 岐阜大会打合せ（岐阜県岐阜市 じゅうろくプラザ）
2/18 第2回岐阜大会合同打合せ会
岐阜大会全般について
2/19 会場視察（岐阜市文化センター等）
- 訃報
全国協会前常任理事 松本 精一さん（群馬県立前橋商業高等学校）が平成24年11月15日逝去されました。



全体会・第1分科会場（岐阜市文化センター）



第2分科会場（岐阜市文化センター）



第3分科会場（じゅうろくプラザ）

編集後記

今回「協会ニュース」増刊号を岐阜大会開催通知の送付に合わせ紙による発行をいたしました。次回は大会特集号を7月に発行する予定です。

- 全国協会HPアドレス
<http://zenjikyoo2.jp/>
検索名は「全国公立」または「全国公立高等学校事務委員会」で可能です。
- 「協会ニュース」並びに「協会HPについて」のお問い合わせ、ご連絡は次の広報部編集担当まで

茨城県立総和高等学校
茨城県立古河中等教育学校／富田
TEL 0280 (92) 4551
FAX 0280 (92) 8362
E-mail tomita.hideaki@mail.ibk.ed.jp

千葉県立松戸馬橋高等学校／有本
TEL 047-345-3002
FAX 047-346-5330
E-mail m.armt@pref.chiba.lg.jp

群馬県立大泉高等学校／菊地
TEL 0276-62-3564
FAX 0276-62-7318
E-mail kiku-ta@pref.gunma.lg.jp



岐阜駅前広場 黄金の織田信長像（写真提供：岐阜市）